



# Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza.rikkyo.ac.jp>

<No.72>

## 特集 立教新座で学ぶリーダーシップとは

本校は「共に生きる力」を育てることを教育目標の1つとしています。立教新座ならではのリーダーシップ教育では、個人の価値観や文化の違いを受け入れながら、周りの人を巻き込み、共に行動することが求められます。今号では、一般的な「リーダー」という単語から想像するイメージとは少し異なる「立教新座のリーダーシップ」をどのように学ぶのかをご紹介します。

従来型の  
リーダーシップ

権限やカリスマ性のある**一人のリーダー**が周りの人を引っ張っていくイメージ  
学校であれば学級委員長、会社であればプロジェクトリーダーのような存在

時代とともに求められるリーダー像も変化

本校が目指す  
リーダーシップとは…

**自ら問題解決に主体的に取り組む能力**

〇〇大会で  
優勝するぞ!

それは… **成果目標を示して周りの人を巻き込んでいく行動**

例えば、もしこんな目標を立てたら…

自分の役割は何かを自ら考えて行動する

クラスの成績を  
みんなで上げよう!

学級委員や部長、キャプテンなどの役職に就いていない人も含め、  
**全員がそれぞれのリーダーシップを発揮すること。**

それを通して

**「共に生きる力」の育成**

を目指します

リーダーシップを学ぶためのポイントは

**振り返り作業**

- ・自分が経験したことを、紙に書いて定着させる  
例えば、行事や試合で、自分がどう活躍したか  
クラスメイトや部員の状態がどうだったか
- ・クラスメイトや部員全員が、お互いに相手への  
フィードバックを紙に書いて渡し、口頭でも説明する。

**振り返りをすることで**

自分の強みや弱みを知ることができる。  
自分の「伸ばしたい点」「直したい点」をまとめることができる。  
定期的に改善目標を立て、達成できるよう行動できる。

・お互いに「良いリーダーシップ」を発揮したことを  
ほめることにより、向上できる。

・自分自身で考え、紙に書くとともに口頭で伝えること  
により、学んだことが定着していく。

**新たな行動でリーダーシップを発揮**

\*具体的な取り組みについては次のページ以降でご紹介します。

## 中学で学ぶリーダーシップの基礎

～校外研修旅行の事前学習ではこんな意見がありました～

立教新座で定義されているリーダーシップとは、従来のリーダーシップの意味とは少し異なっています。本校のリーダーシップとは、従来のリーダー像からイメージされる「権限」がなくとも他者との協力のもとに主体的に動き、目的を達成するために働くことを言います。つまり、カリスマ性を生徒に求めているわけではなく、自ら問題解決に主体的に取り組む能力を育てることを目的としているのです。従って、大事なことは次の3点だと言えます。

1点目は、成果目標を設定すること。2点目は成果目標達成のために自ら行動すること。3点目は周囲に動いてもらえるように成果目標を共有することです。このようなリーダーシップを身につけられれば、より良い結果を出すために、自分の適切な役割を担うように自ら行動し、周囲を巻き込むことができる能力や、部活であれば、チームメイトの意見や不満を積極的に聞き、チームを目標へ導くことができるという能力を発揮できることが期待されます。

とはいえ、上記のようなことをいきなり中学生に求めることは難しいため、中学ではリーダーシップの基礎として、中3の校外研修旅行で集団行動について考える時間を設けています。集団行動に関する成果目標を各々が持ち、研修旅行中は成果目標のために各々が考えて行動したおかげで、概ね集団行動が守られていたと思います。このように、簡単なことから成功体験を積み重ねることで、本校が目標としているリーダーシップを少しずつ身につけていってほしいと期待しています。

中3学年 齊藤 太郎 先生

Q1：集団行動をする上で、最も大事なルールは何だと思いますか？

集団行動において大事なことは時間を守ることや勝手に班を外れないことである。そのためには、腕時計で時間を常に管理し、緊急時は班員に一声かけ、勝手な行動をしないようにする。

Q2：1.で考えたルールをみんなが守るために、自分は何ができますか？

ルールを守って自分勝手な行動をしないこと、そのためには、遅れた人には厳しく注意し、集合時間などは責任もってしっかり伝えることが大切だ。

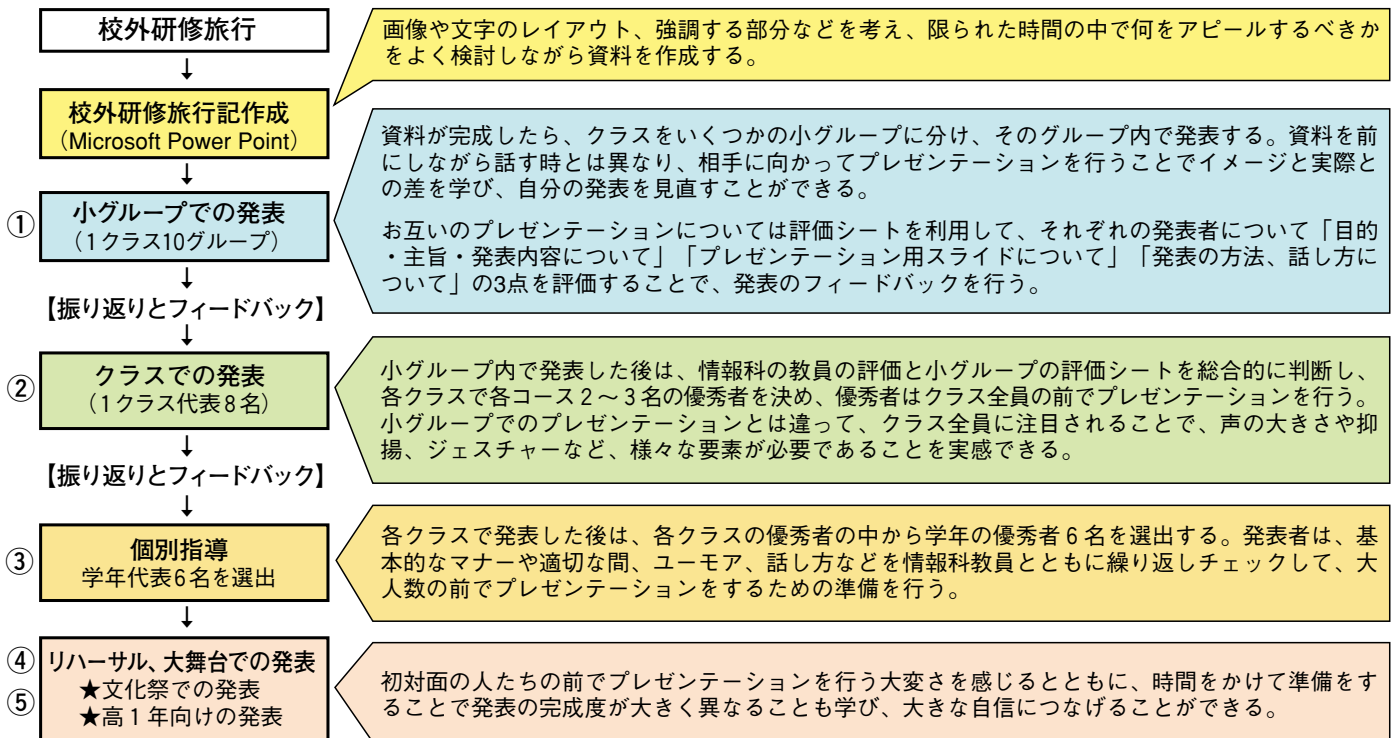
～校外研修旅行の事後学習ではこんな意見がありました～

集合時間に一度も遅れることなく、班員でまとまって行動することができた。

全員が時間を守ることができ、当初の目標は達成することができた。

## 高校で学ぶリーダーシップの基礎 ～プレゼンテーションを通して～

高校2年生「情報の科学」の授業ではプレゼンテーションの授業を行っています。目的はプレゼンテーションを通じてリーダーシップを身に付けること、目標はプレゼンテーションソフト（Microsoft Power Point）を用いて「校外研修旅行記」を作成し、発表することです。授業ではプレゼンテーションとは何かということ学び、単に話をするだけや文書を書くだけではなく、伝えたい内容をわかりやすく、印象に残るように伝える方法を学びます。



このように発表者は、①小グループでの発表からはじまり、②クラスでの発表、③個別指導、④⑤リハーサル、そして大舞台での発表というステップがあり、その度にプレゼンテーションのフィードバックを行うことができます。今後はフィードバックを行うことで活動をより良いものにする機会や、相手に自分の主張をわかりやすく説明する機会などをできるだけ増して、生徒がリーダーシップを発揮する場を広げたいと思います。

情報科 花岡 宏行 先生

## 高校学友会のリーダーズ会議

高校学友会の部活動では、各部の代表者（委員）による文化部委員会、体育部委員会が設けられています。それぞれでどのような会議（ミーティング）が行われているのか、先生と生徒に聞いてみました。

### 文化部のリーダーシップ研修

毎年2学期末には、次年度の各部の役員も決まりますので、文化部では、文化部委員に加え、部の中心となるキャプテン・マネージャーも集めて、文化部リーダーズ会議を行っています。部活動の発展について考え、さまざまな学校のルールを正しく理解し、さらに、リーダーとしての役割を認識し、各部のリーダー間の親睦を図ることが目的です。2015年12月21日、H R終了後、G 101教室で2016年度の役員を対象に開催しました。毎年行っている、諸規程の解説、文化部委員会三役の選出に引き続いて、稲垣憲治先生（立教大学経営学部）によるリーダーシップ研修会を行いました。各部の目標と、それを達成するための行動を、長期的なものから短期的な項目まで洗い出し、模造紙に書き出して、部活動の活性化のために自分たちが努力すべきことを明らかにしました。文化部は、コンクール入賞を目標にしている部ばかりではありませんが、各部の現状を見つめて、クラブのリーダーとして何をすればよいか考えるよい機会となりました。

文化部長 中村 勝 先生

### 体育部のリーダーシップ研修

僕たちフェンシング部は、今回のリーダーズミーティングの講義を受けて、まず、部員一人一人の目標と、部としての目標、さらにそれを達成するための練習内容を定めるために、部員全員でミーティングを行いました。中高一緒に活動していますが、これまではコーチや高学年の先輩が練習内容をすべて決め、それを部全体の方針としていました。その体制を変えるため、今回は中学生から高校生までの少人数縦割り班を作り、後輩の意見も参考にできるようにしました。それによって今まで気づくことのできなかった問題点を見つけることができました。具体的に言えば、後輩が感じていた縦の関係の溝、それにより先輩にアドバイスをもらいづらいなどの点です。このような制度を導入したことにより、以前より部員が納得して練習に取り組むことができるようになり、練習の質をさらに上げることが出来ました。これからも部としてこのような活動を続けていきたいと思えます。

高校3年 フェンシング部 マネージャー 齊田 健吾

私はリーダーズミーティングを通して、リーダーとは何かについて考えるようになりました。以前までの私の中での「リーダー」は常に皆の先頭に立って引っ張っていく存在でした。しかし、このミーティングを終えてから、リーダーは「先頭」ではなく「中心」にいるべき存在だということに気づきました。自分の意見や考えを周りの人に伝えることはもちろんですが、それ以上に周りの意見に耳を傾け、それをまとめることを最重要視するのがリーダーだということを知りました。

現在、自分自身が空手道部のキャプテンとしてリーダーシップを発揮しなければならぬ立場にいます。部活動において私が最も心がけていることは、部員一人ひとりが役割を考えリーダーシップを身につけてもらい、他人任せにしないことです。「誰か一人だけが」でなく、「全員が」リーダーシップを発揮することが集団行動においてとても重要だと感じています。

高校3年 空手道部 部長 大辺 考汰

## 高校1年生対象 OB講話会

5月中旬に、OB講話会を企画しました。これは、本校の卒業生が、自分たちの高校・大学生活、就職活動や今の職業について、入学直後の高校1年生に講演をするという企画です。高校時代はキャリアへの情報が少ない一方で、進路の大きな決断を迫られる時期でもあります。しかし、生徒が出来る大人は限られています。一方で学校には、卒業生という多様な大人とのつながりがあります。この豊かな人材を活用して、立教版の「ようこそ先輩」を実現しよう、ということが企画の趣旨でした。当日は、16名ものOBの方々にご協力いただきました。

OBの方々には2回の連続講演をお願いしました。16名のOBにご協力いただけたことで、1会場の平均参加者は20名と、聞き手にも話し手にも相手の顔が分かる、小規模の講話会を実現することができました。また、連続講演をお願いしたことで、生徒は2名の異なる先輩の講話を、1時間ずつ聞くことができました。その後教室に戻って、どのような話を聞いてきたかをクラスの友人と共有しました。単に話を聞くだけでなく、その話を誰かに伝えることは情報の整理に繋がります。また、聞き比べは、多様な人物像を理解する上でも、有効な方法でした。

先輩たちは、工夫を凝らしたスライドで、仕事の面白さを楽しそうに語ってくれました。高校時代をどう過ごす？という問に対して、「目の前のことをとにかく頑張れ！」というメッセージを發してくれていたように感じました。生徒へのメッセージもさることながら、この企画実現に際して、一番頑張ってくれたのはOBの方々であったことを、最後に添えておきます。

高1学年 荒井 雅子 先生

講話会後の  
振り返りから  
～生徒の声～  
(抜粋)



大学生がいったいどういうものなのか、どのように進路を決めたのかなど、これから来るであろう大学生活の話聞くことができてよかった。自分の好きなものを深めていって同じ志を持った人同士と出会うということは大切だなと考えさせられた。

聖書と英語を学んだことで外国の方とのコミュニケーションがよくとれて役に立ったとおっしゃっていた。進路を変えることは可能で、将来の夢はしっかり持たなくてもよいから、今一生懸命やっているものをやるとよい。とのことだった。

学生のうちは部活などを頑張って自信をつけるべき。なぜなら1つでも強みを持っていると新しいことにも臆することなくチャレンジできる。諦めずにやり遂げることによって培われる耐久力が社会に出て何よりも大切だと。今を全力で生きなければと思った。

## キャンパスピックアップ

### 第二回 国際公共政策コンファレンス出場

高校2年生 石井嘉樹くんが最優秀賞を受賞

4月16日と17日の2日間に渡り、大阪大学大学院国際公共政策研究科と大阪大学全学教育推進機構高大連携オフィスの主催による「第二回 国際公共政策コンファレンス」が開催され、本校からは高校2年生の3名（2チーム）が出場しました。

このコンファレンスは、昨年からはSGH関係を対象とした研究発表の場として大阪大学が開催しているものです。この会の特徴は、単に調査だけでなくその解決方法も提示すること、研究発表の形式が強く求められる事にあります。課題研究というSGHの手法が浸透してきたのでしょうか、各校の研究発表のレベルは昨年よりも上がっていたように感じました。発表準備はとてもストレスのかかる作業ですが、今年参加した本校の2チームは、悩みつつもよく耐えて頑張っていました。

また、この会では発表以外に、参加生徒同士の情報交換・交流会も企画されています。本校の参加生徒も、他校の生徒から大きな刺激を受けていました。主催者は日本におけるダボス会議を目指して、この会に「待兼山会議」という副題を付けています。ゆくゆくは知性の集結・発信の場を目指しているようです。

引率 社会科 荒井 雅子 先生・石和田 京子 先生



**発表資格：**2016年度に高校3年生もしくは2年生になる人

**発表人数：**個人・チーム問わず。最大で1チームは4人まで

**発表内容：**国際的な社会問題に関する分析及びその解決策の提示

**発表形態：**スライドを用いた口頭発表（20分）

本校から参加した生徒の発表テーマ

- ①南極の2048年問題（石井嘉樹）
- ②ウクライナ・フィリピンから学ぶイスラム自治地域設立のプロセス（野口桂佑・井口卓磨）

### テーマ：南極の2048年問題

#### 【発表の要旨】

2048年以降、南極において鉱物資源開発が解禁されてしまうという可能性がある。資源問題は南シナ海問題に代表されるように紛争に発展する例も多く、南極も例外ではない。それが現実となればグローバル・コモンズである南極を保護することは困難となる。現在南極における国際的な取り決めとして南極条約体制が維持されている。しかし同体制には批判的な意見が多く、南極の環境を保護していくためには不十分であると考えられる。よって本稿では南極を総合的に管理する新国際機構を提案する。各国から独立した国際機構が南極に関する各国の活動を管理することで、環境保護を中心とした意見を反映することができる。新国際機関を設置することにより、グローバル・コモンズである南極を保護していくことが可能になると考えられる。



#### 【参加の動機と感想】

僕はもともと国際問題や公共政策といったものに興味があり、先生からの勧めもあって国際公共政策コンファレンスに参加しました。この企画は、研究論文を執筆し、それを発表するというもので、僕は2048年以降南極における鉱物資源開発が解禁される可能性が高まるという問題を「南極の2048年問題」として発表しました。国際公共政策と聞いて、はじめは何について調べるのがよいのかわかりませんでした。いろいろと調べていくうちに南極において様々な問題があることを知り、このテーマを研究することにしました。文献を読み、論文を書いていく中で、文章をまとめること、発表をすることの難しさを実感するもありました。しかし、この企画に参加して、全国の学校から来た人の研究や大学の教授の方々の講演を聞くことで、今まで知らなかった様々な国際的な問題について知ることができ、とても有意義な経験をすることができました。今回の経験を活かし、今後も様々なことに興味を持ち、学んでいきたいと思っています。

高校2年 石井 嘉樹



左から 野口君、井口君、石井君

## テーマ：ウクライナ・フィリピンから学ぶ イスラム自治地域設立のプロセス

### 【参加した動機】

私たちが今回、大阪大学国際公共政策コンファレンスに参加しようと思った理由は、現在世界で起きている国際問題の中で、「私たちの持つ考えはほかの方にどう映るのか」ということが気になったためです。今回私たちは世界各地でテロ行為を行っているIS (Islamic State) についての話題を扱いました。現在各国のISへの対応として空爆など一部の軍事介入を行っています。しかし空爆や軍事介入をするという事は、IS以外の一般住民を殺すということにもつながりうると私たちは考えました。例えば、空から爆弾が落ちてきてISの戦闘員だけに当たる、ということは果たして起こるでしょうか。残念ながらそのようなことはなく、一般住民を誤爆してしまうこともあると考えられます。そこで、私たちはこのような軍事介入の方法に意味があるのか、住民の安全を守れるのか、という点に注目しました。そして私たちは自分たちの考えに様々な意見や指摘をいただきたいと思い、今回本コンファレンスに参加しました。(野口・井口)



高校テニス部では「全国大会で勝つ」・「全員で戦う」を目標に、県内最大の69名の部員を抱え、限られたコート面数を中学と共用し、短時間に集中して効率よく練習に取り組んでいます。本校テニス部の大きな特色として、ART (ALL RIKKYO TENNIS) プロジェクトにより、小中高大でのテニスの一貫連携の強化体制の整備が進められ、大学の練習への参加、体育会OBコーチの各校派遣などの結果が少しずつ実を結びつつあります。

3月20日から福岡県の博多の森球技場で開催された全国選抜高校テニス大会には、立教新座高校としては初、立教高校時代から数えて18年振り12回目の出場となりました。これは県予選(2位)、関東選抜(8位)で選手・応援の部員が一体感を持った戦いができたことが最大の要因です。

高校テニス部顧問 平山 晋 先生

### 第38回全国選抜高校テニス大会結果

- 1回戦 対 城南高校(徳島：四国2位) 5-0  
2回戦 対 岩手高校(岩手：東北1位) 2-3

### 【感想】

今回このコンファレンスに参加して最も痛感したことは、論文を組み立てる難しさと、何より綺麗事だけでは国際問題の解決には至らないということでした。どんなことも口先だけでは簡単に言えるのですが、しかしながらそれが実行できるものであるのかということ、やはり難しいのです。私たちの視点は「人命を第一に考える」というものでしたが、そのために思いついた提案が、「できることならやっている」というもので、結局は理想だけをひたすらに追いつけるものでした。

今度はより実現可能な解決策を練ったうえで可能な限りの理想を追い、また来年本コンファレンスに挑戦したいと思います。

高校2年 野口 桂佑

大阪大学国際公共政策コンファレンスに参加してみて、私たちの論文には現実的には難しい所、いわゆる論理の飛躍が複数見られました。国際問題を考える上では現実性をもっと重視して考えるべきだと改めて感じました。また鋭い質問や意見も多数あり、それに解答することも大変難しいと感じました。しかし得るものはそれ以上に多かったと思います。同年代からの様々な意見、教授の鋭い意見、どれも普通の学生生活だけでは味わえない素晴らしいものでした。

来年は今年の反省を生かしもう一度論文を書いてみようと思います。

高校2年 井口 卓磨

### 高校テニス部 全国選抜高校テニス大会に出場！



全国選抜高校テニス大会 2016年3月20日～23日

私は主将として全国選抜の試合に出させていただいた。立教新座は他の出場校に比べ、明らかに練習時間が少なく全国大会からも18年間遠ざかっていた。だが、奇跡と言ってもいい出場を果たし、ベスト32の結果を残せた。これは選手の頑張りだけでなく先生、コーチの方々、OBの方々、保護者の皆様、そして何より応援してくれた仲間たちのおかげでなしえたものだと思う。しかし、たくさんの方々の期待を背負って挑んだインターハイ予選は惜しくもベスト4で敗退し、三年生は引退してしまった。後輩たちには私たちと同じ想いをしないよう、日々精進して、強豪立教新座高校の礎を築いてほしい。また、この代の仲間たちは私の一生の誇りである。

テニス部主将 高校3年 武田 祐亮

## チャペルだより

*Do Your best, and it must be first class*

—最善を尽くせ、そして一流であれ—  
ポール・ラッシュ博士

立教におけるリーダーシップのあり方を考える時、私は冒頭に掲げたポール・ラッシュ博士の言葉を挙げたいと思います。彼は1925年、関東大震災で被災した東京と横浜のYMCA（キリスト教青年会）会館再建委員として初来日します。そして、任務を終えて婚約者の待つ母国へ帰国しようとした時に、当時の立教学院理事長J.マキム主教の懇請で、一年だけという約束で立教で教えることになりました。しかし、彼はそこで出会った若者たちとの出会いを通して1927年にBSA（聖アンデレ同胞団）の日本支部を立ち上げ、その後は帰国することなく、青少年の育成のために清泉寮を立ち上げるKEEP協会のために奔走します。生涯独身を

貫き、BSAの理念である「祈りと奉仕」を実践し、日本のため、KEEP協会のために全精力を傾けたポール・ラッシュでしたが、様々な困難、試練に会いました。そのたびに自らを奮い立たせるように口にしたのが冒頭の言葉です。そんな彼を支えたのは、彼のキリスト教信仰と周囲の人々でした。

太平洋戦争勃発直前に多くの宣教師達が本国の指示で帰国する中、彼は日本人を信じて、困難な状況の中でも一人残ります。戦後も清泉寮が1955年、財団法人キープ協会としてスタートしようとした矢先に、火災によって消失するという災難にも会いました。

しかし、そのような中でもポールは常に自分の信念に忠実であろうとしました。そんな彼の周りには多くの若者や、かつての教え子達、特に社会人として責任ある地位に就いた人々が集まり、励まし、物心共に彼を支えたのです。ポールの教えを受けた人は、立教の学生だけでなく、地域の人々や子ど

もたちも多くいました。そして、その教え子たちは彼の言葉を実践し、社会において素晴らしいリーダーシップを発揮し戦後の日本の発展を支えたのです。

その中の一人に、私の教会の友人であったエリアザル天野健太郎さんという方がおられました。天野さんは博士の言葉を常に座右の銘とし、企業人としては群馬日産の会長として活躍されただけでなく、自身の留学経験を生かして、当時マイナーだった日本の馬術競技を向上させる働きを生涯続けられました。帰天後はその功績を称えられ群馬県国体予選は「天野健太郎メモリアルカップ」という名前になりました。その天野さんの墓碑にはご自身の遺言で冒頭の言葉が刻まれています。この天野さんのみならず、博士の教えを受けた教え子たちは社会で大いに活躍されています。私たちも博士の厳しく気高い言葉を心にとめて、日々学んでゆきたいと思います。

チャプレン 金山 昭夫

## GLAP

立教大学でGLAP  
(Global Liberal Arts Program)が  
2017年4月からスタートします。



GLAPとは、立教大学入学時から所属するコースの名称で、原則英語のみで学位の取得ができるものです。

2年次秋学期から1年間海外の協定校に留学することや、その留学先での寮生活を視野に入れて、それまでの間は留学生と一緒に寮生活をする（全寮制）など様々な特長があります。

リベラルアーツを英語で学び、日本にいながら常に「世界」を意識できる環境に身を置くことができるコースです。

2016年度 学校説明会 9月19日(月・祝)

中学校 1回目 9:30～10:30 2回目11:00～12:00

高校 1回目 13:00～14:00 2回目14:30～15:30

2016年度S.P.F.(文化祭) 10月29日(土)・30日(日)

## Campus News Rikkyo Niiza 第72号

編集：立教新座中学校・高等学校教務・入試広報課

発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)

### 行事予定 ～中学校～

7/18(祝)	オープンキャンパス
21(木)	1年社会科校外学習①
22(金)	1年社会科校外学習②
8/4(木)	米国サマーキャンプ(～8/16)
18(木)	清里環境ボランティア(～20)
9/5(月)	2学期始業礼拝 宿題試験
17(土)	運動会
10/1(土)	朝霞地区大会(～4)
9(日)	英語検定
18(火)	中間試験(～19)
29(土)	S.P.F.(文化祭)(～30)

### 行事予定 ～高校～

7/18(祝)	オープンキャンパス
22(金)	豪州短期留学(～8/14)
8/1(月)	英国サマースクール(～8/16)
18(木)	清里環境ボランティア(～20)
22(月)	榛名ボランティアキャンプ(～25)
9/3(土)	認定試験
5(月)	2学期始業式 宿題試験
24(土)	TOEFL ITP
10/9(日)	英語検定
18(火)	中間試験(～19)
29(土)	S.P.F.(文化祭)(～30)